

もっと知りたい、きよせの暮らし

more!
KIYOSE City Promotion
Magazine

No. **07**
2025.09

清瀬生まれの新名物

きよはち物語／清瀬ひまわりフェスティバルをふりかえる／
清瀬市郷土博物館／清瀬市男女共同参画センターアイレック／
KIYOSEのひと／清瀬市観光協会の推し！



清瀬ひまわりフェスティバル

TAKE FREE

きよせ棒
コーンポタージュ味
1袋10本入り 410円(税込)

10/1
発売!

まちの畑から、新しいおいしさ

FROM KIYOSE

市制施行
55周年
記念!

きよせ生まれの新名物

清瀬の畑で育った恵みが、この秋、新しい地域産品になりました。大切にしているのは、商品を“もの”としてだけでなく、市民の地域への誇りや愛着を深め、人々の心まで届けること。畑の匂いや風など、この土地ならではの環境も魅力の一部と考え、自然と人が共にある地域の誇りを伝えます。生産者の顔が見える商品づくりや、農作物を無駄なく活かす加工にも取り組み、三つの新名物が誕生です。

販売場所は
こちらから



清瀬市市制施行55周年記念
キョセゴーゴーカレー

1袋155g 550円(税込)

9/23
発売!



清瀬産ニンジン香る
限定コラボの記念カレー

本市が令和7年10月1日に市制施行55周年を迎えるのを記念して、金沢カレー人気の火付け役「ゴーゴーカレー」と清瀬市の特別コラボが実現。これまで数多くのコラボカレーが同社から出ているものの、自治体とのタッグは今回が初めてです。さらに、オリジナルレシピでは具材として使用されていないニンジンを取り入れるのも、初の試み。コンセプトは「やさしさ」。子どもでも食べやすい味を目指し、清瀬産の持ち味が伝わるようニンジンの食感が分かりやすいサイズにカット。ニンジンの甘みが濃厚なルーに寄り添い、中辛のキレを保ちつつ、甘味とのバランスがとれた食べやすいテイストに仕上がっています。お手軽にごはんにかけるもよし、清瀬産の甘いキャベツを千切りにして、カットを乗せた本場の味を再現するもよし。清瀬の野菜と金沢の名店が出会って生まれた記念イヤー限定の商品を、価格は55周年にかけて550円で。

あの「きよせ棒」に、新味が登場。幅広い世代に親しまれるコーンポタージュのやさしい風味が特徴です。原材料のとうもろこしは、地元・清瀬産の堆肥を使って育てたもの。清瀬の恵みを余さず生かすため、実だけでなく、芯までまるごとパウダーに加工して練り込みました。熟しすぎて収穫適期を逃した規格外品を活用し、SDGs 未来都市の清瀬市らしい「地産地消+アップサイクル」の発想から生まれた一品です。ひと口目はふわっと甘く、後からじんわり口の中に広がるとうもろこしの旨み。芯由来の香ばしいコクが甘味をぐっと引き立てます。軽やかな食感で食べやすく、仕事や勉強の合間のおやつにもぴったり。さんびらごぼう味と合わせてお手みやげや差し入れにも。

10/19
開催!

「きよせ市民まつり」で秋のあたらしい味に出会う

清瀬市の秋の一大行事「きよせ市民まつり」が今年も開催。清瀬駅北口のけやき通りには、市内外の店舗・団体ブースがずらり並び、グルメに体験、ショッピングまで一日中楽しめます。今年は新たに第2ステージを設置し、音楽やダンスなどプログラムもいっそう充実。「清瀬市役所春まつり2025」で好評だったミニSLの運行や、きよせフレンドリータウン&カンパニーのブースとともに、懐かしのボンネットバスの乗車体験も登場。さらに、本特集で紹介した「きよせ生まれの新名物」3品も会場で販売。手みやげにもぴったりの限定アイテムです。子どもから大人まで、秋のひとつを思いきりお楽しみください。

日時 2025年10月19日(日)
時間 10:00~16:00
場所 けやき通り(西友清瀬店から志木街道まで)
主催 きよせ市民まつり実行委員会
後援 清瀬商工会・清瀬市観光協会・清瀬市

清瀬まん キーマカレー味

1個 350円(税込)

好評
発売中!



やさしい旨み包みこむ
心まであたたまる味

昨年度、大人気のうちに即完売した「清瀬まん」が、市民の皆さまの声にこたえて待望の再登場。スパイス香るキーマカレーに、最もおいしい時期に収穫した新鮮な清瀬産とうもろこしの甘みを合わせ、今年はさらに清瀬産のニンジンをプラスして、バージョンアップ。ニンジンが、スパイスの辛さをほどよくマイルドに、じんわりと広がるコクと旨みを生み出して、子どもからお年を召された方まで幅広く愛される味わいです。冷凍庫に常備しておけば、おやつや夜食はもちろん、忙しい日の一品にも、温めるだけでできたてのおいしさ。清瀬の畑が育んだ素材が、ほっとひと息つく時間をやさしくあたためます。

ご縁がつなぐ返礼品
きよはちと
明菜さんの贈りもの

清瀬市と市出身アーティスト・中森明菜さんがコラボしたふるさと納税返礼品が登場。市役所屋上で採れたはちみつ「きよはち」(P4参照)と、明菜さんデザインの耐熱ガラスカップやメッセージ入りカードを、オリジナルボックスに詰めた特別セットです。寄付額は5万円、全300セット限定。8月27日より「ふるさとチョイス」「楽天ふるさと納税」で受付開始しました。



きよはち物語

清瀬市役所産はちみつができるまで



地域活性化の取組として平成26年に始まり
一時休止を経て、令和5年度に養蜂・採蜜を
民間委託して復活。市役所屋上発「きよはち」の
歩みとその未来、支える仕組みやこれからの追います。



- ① 清瀬市の養蜂を支える「東京ジャム(株)」の皆さん
- ② 純度100%の瓶詰100g2,800円(35g1,200円)と、きよはちサイダー340ml350円
- ③ 8月に行われた採蜜体験会は申し込み開始初日で定員が満員になる人気ぶり

※価格はすべて税込です



市役所屋上から始まった養蜂 地域循環を育む挑戦

平成26年(2014年)、清瀬市は「自然と人がともに生きるまち」を掲げ、市役所屋上を舞台に養蜂を始めました。都市部にありながら雑木林や農地が多く残る清瀬市の環境を資源として捉え、受粉による農作物の実り、自然への関心の喚起、そして地域産品づくりを同時に叶える挑戦でした。屋上の巣箱から飛び立つミツバチが集めた蜜は「清瀬市役所産はちみつ」「Kiyohachi」として商品化され、学校給食やイベント出店、ふるさと納税の返礼品などで親しまれてきました。都内初となる自治体職員による養蜂であり、活動報告や採蜜体験を通じて、見える化されたことで、市民の理解と応援が広がりました。市内事業者との連携も早くから進み、焼き菓子やパン、化粧品、ジェラートなどへと広がったことで、

はちみつ香る、 清瀬発 クラフトジン誕生



日本各地で個性豊かなクラフトジンが生まれるなか、清瀬市にも「きよはち」を使った特別な一本が加わります。10月4日に発売される「きよはちジン」は、北海道の馬追蒸溜所とのコラボで開発された200本限定品。スパイスは控えめに、はちみつのやさしい甘みとユズの爽やかな香りを引き立て、まるではちみつレモンのような軽やかに仕上げています。価格は350ml4,400円(税込)。10月4日「クラフトな夜」(裏表紙参照)でお披露目予定です。

「Kiyohachi」は単なる商品を超え、清瀬の風景や人の営みと結びついた、地域の物語として育っていききました。季節ごとの花の個性が瓶の中に宿り、年によって風味が少しずつ異なることも魅力のひとつ。採蜜見学など体験プログラムも実施し、子どもから大人まで多くの市民がミツバチの仕事にふれる機会を重ねることで、身近な自然を守る意識と関わりの輪が広がっていききました。

休止期を越え再始動への道 官民連携で持続可能な運営

一方で、市職員が直接養蜂を行うにあたり安全面への配慮、人員体制や季節要因への対応など、多くの課題がありました。持続可能な運営方法を検討した結果、ある時期には採蜜を見送るなど、活動を抑える判断を行った年もありました。市内外からは「Kiyohachi」を続けてほしい」という声が数多く寄せられ、関係部局の協議を経て、事業を継続し地域資源として磨き続けるため、養蜂・採蜜業務を民間の養蜂事業者へ委託することになりました。専門性を持つ事業者が日々の飼育・病害対策・採蜜を担い、市は安全管理や広報・学習・交流の場づくりを推進する――

新商品で広がる味の輪と絆 きよはちサイダー誕生物語

委託後は、瓶の形、ラベル、ロゴも一新し、スタイリッシュに生まれ変わりました。定番の瓶詰に加え、令和7年夏、市制施行55周年を機に「きよはちサイダー」が誕生。「きよはち」のほのかな

きよはちが届くまで

- 1 巣箱を取り出す**
巣房が蜜で満ち全面が封蝋されたら、巣板を巣箱から静かに取り出し、作業台へ丁寧に運ぶ。
- 2 蜜ろうを落とす**
巣板の両面に付いた蜜ろうを蜜刃で薄く削る。削りかすは溶かしてロウソク等に再利用。
- 3 遠心機にかける**
蜜がたまった巣板を遠心機に2枚セット。手で回し、遠心力で蜜を飛ばし槽の底へ集める。
- 4 蜜を採集する**
遠心機のコックを開けて採蜜。混入物を細かな網で丁寧に濾し、澄んだ蜂蜜を受け取る。

INTERVIEW

東京ジャム(株)
野崎 林太郎さん



― 清瀬市の環境は、
はちみつにどう表れていますか？

野崎さん 採れたはちみつは糖度や残留農薬の有無を検査しており、甘みや香りはもちろん、安全性も証明されています。それは清瀬市の農地や自然環境が健全である裏付けでもあり、安心して「きよはち」をお届けできます。

― 読者に伝えたい
「きよはち」の魅力は何ですか？

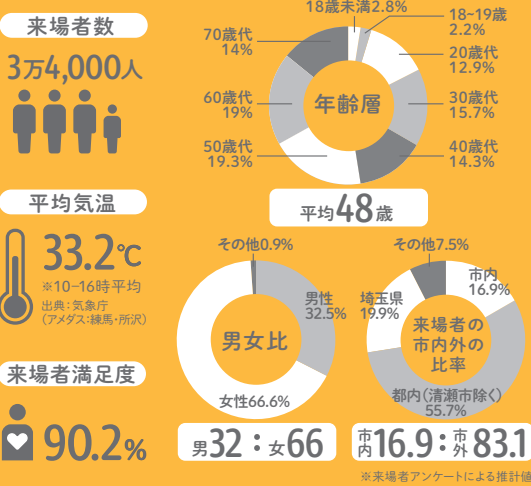
野崎さん ミツバチが花をめぐること、果物が結実し、集めた蜜がはちみつになって人の暮らしに届く。はちみつは地域の豊かさを伝える存在だと思います。これからは、この「循環」をもっと広げていきたいですね。

青空と笑顔に包まれた9日間

第15回 清瀬ひまわりフェスティバルをふりかえる

データで見る、ひまわりフェス

来場者数や天気、SNSの動きまで。
この夏の“ひまわり”を、数字で分かりやすく振り返ります。



清瀬駅周辺では、街バルイベント「清瀬ひまわりフェスティバルBAR〜きよ飲み!!〜」を開催。市内のさまざまな飲食店40店舗が参加し、参加者はチケット1冊3,000円(1,000円券×3枚)を購入し、チケット1枚につき1フードと1ドリンクの街バル特別セットメニューを楽しみました。3日間で使い切れなかったチケットは、「あとバル」期間中に金券として利用されたほか、今回は「きよはちサイダー」が参加特典としてプレゼントされました。

ひまわり畑から、まちへにぎわった「きよ飲み」



広がる“ひまわりの輪”
連携と回遊のしかけ



今年は会場だけで終わらない、市内を回遊する楽しみ方を強化。市内11イベントと連携し、共通チラシやパンフレットを配布。まちへ足を運ぶきっかけをつくり、清瀬をまるごと楽しんでもらえるようPR。同時開催は、けやきロードフェスティバル、ナゾトキア、盆踊り大会、きよせの環境・川まつり、ふれあいロード夏まつり、さきおり体験など。ひまわり畑から商店街、イベントへと楽しみが広がり、地域全体で夏のお祭りムードを演出しました。

清瀬の“味”と体験も盛りだくさん。今年は新企画としてとうもろこしのもぎ取り体験が実施。売店には、きよはちを使ったはちみつレモネード、フルーツかき氷、とうもろこしジェラートはじめ地元農産物などが並び、また、新商品として登場した「きよはちサイダー」も話題を呼びました。コミュニティプラザひまわりで開催された「みらいdeマルシェ」や、清瀬駅南口で開催された若手農家による清瀬旬菜花倶楽部のタ市も盛況でした。

地元の魅力も満開！
マルシェ&グルメ



青空と笑顔に包まれた市内のイベントを
プレイバック。イベント連携と晴天で彩られた
今年のひまわりフェスティバルを数字と
エピソードで総括。

清瀬の夏を立体的に伝えます。

晴天続きが後押し
会期を通じ来場好調！

今年の来場者数は昨年を上回る約3万4000人。連日続く猛暑日のなか多くの皆さまにご来場いただきありがとうございました。会場内にはミスト扇風機や散水チューブなどの涼み処を設置。都心からの来場者からは「市街地より風が抜けて涼しい」との声も多く、快適性の向上と晴天続きの好条件が相まって、多くの方に楽しんでいただきました。土日は開場時間を17時まで延長し、来場分散による混雑緩和にもつながりました。

フォトジェニックな一枚が続々
写真コンテスト



会場のひまわりの花は順番に見ごろが巡る“リレー開花”。会期9日間は会場のどこかで満開の花に出会えるよう栽培されています。ひまわりの花が正面を向く東側にはミニ見晴らし台と特別観覧席「ひまわりテラス」を新設し、抜けのいい景色を狙える新スポットに。また、西側には広場を作り、農機を展示。大型トラクターと一緒に撮影する子どもたちの姿も。恒例の写真コンテストの受賞作品は10月に公式サイトやSNSで発表予定です。

清瀬市郷土博物館 市民と歩んだ 40周年

開館から40年、清瀬市郷土博物館は市民とともにまちの歴史や文化を守り続けてきました。資料の収集・展示、さまざまな体験を通して、人々がふれあい学び合う拠点として歩んだ軌跡と、未来への挑戦を紹介します。

- ①地域の歴史を守り伝える郷土博物館スタッフの皆さん
- ②結核の関連資料を常設展示。清瀬の病院街の歴史を知ることができます
- ③「清瀬のうちおり」常設展示は季節によって入れ替わります



ふれあいと学びを通じて
清瀬の歴史を未来へ伝える

清瀬駅北口からケヤキロードギャラリーの彫刻群を眺めながら歩くこと約10分。自然豊かな場所に郷土博物館が開館したのは、昭和60年（1985）。当時、市内では宅地開発が進み、新たに清瀬に移り住む人々が増えていました。新たな住民は、このまちの歴史や文化を知り、古くからの住民は受け継いできた歴史や文化を伝える。世代や立場を越えて人々がふれあい、郷土への理解や愛着を深める場として誕生しました。

博物館の大きな役割は、歴史的資料の収集と保存、郷土文化や伝統行事の継承です。市内で行われるお祭りなどの伝統行事の取材や、ときには古い建物や蔵が取り壊されるという情報を耳にし、所有者の了承を得たうえで貴重な道具や文書などの資料を保全することもあります。また、学校や文化・芸術団体との連携も大切な役割のひとつです。学校の授業や社会科見学も受け入れ、子どもから高齢者までの幅広い世代が郷土の歴史や文化に直接ふられる学びの場となっています。

館内に入ると古代から近代までの清瀬の歩みをたどる常設展示室のほか、企画展を行うギャラリーがあります。

常設展示の見どころは、平成29年に国の重要有形民俗文化財に指定された

俳句や雑誌、病院で使用されていた食器などの出土品を紹介。なお、本年11月、清瀬市はこの歴史を広く世界に向けて発信し、理解を深めるとともに、後世に引き継いでいくため「清瀬結核サミット」の開催を予定しています。

開館40周年を迎えた今、東野館長は「今後は、子どもたちにもっと興味を持ってもらえるよう、最新のデジタル技術や映像などを取り入れた新たな展示手法の検討も必要です」と話します。

市民とともに歩み続け
記憶をつなぎ未来へ伝える

時代とともに変わりゆく清瀬市。しかし、

「清瀬のうちおり」です。清瀬では江戸時代から昭和初期まで、農家の副業として養蚕や機織りが盛んにおこなわれており、農家の女性たちは売り物にならない屑屑から引いた絹糸や木綿の残糸で家族のために布や着物などを織っていました。「清瀬のうちおり」は、いままでも、市民の方が大切に保存されてきたものを市に寄贈いただき、市民の方が収集・整理にご尽力いただいた貴重な資料です。現在、郷土博物館の民俗展示室において、定期的に入れ替えを行い展示されています。

また、敷地内には古民家を模した「伝承スタジオ」があり、先人の知恵や暮らしの技を体験できる場として活用されています。ここでは「染物教室」や「うどん打ち」など、地域の郷土文化を肌で感じられるイベントを定期的に行っています。

企画展の進化が示す
地域文化と新しい挑戦

年に数回行われる特別展では、学芸員がテーマを練り、約1年をかけて資料を集め、来館者が楽しみながら学べる展



清瀬市郷土博物館
☎ 042-493-8585
📍 清瀬市上清戸2-6-41
🕒 9:00～17:00／月曜休館

この地に育まれてきた歴史や文化は変わらず、博物館を通じて次の世代へと受け継がれています。40年の歩みの中で、多くの市民が展示づくりやイベント運営に関わり、まちの記憶を共有してきました。近年では市民ボランティアの活動も広がりを見せています。

郷土博物館は、資料を保存・展示するだけの施設ではなく、人と人をつなぎ、地域の文化を育むコミュニティの場であり、本市のシティプロモーションの拠点です。これからも清瀬の歴史や文化の魅力を発信するとともに「まちの記憶」を紡ぎ続け、次の世代へと引き継いでいきます。

話題を呼んだ、ヒット企画展 BEST 3

郷土博物館の歴史を彩った数々の企画展。その中から、多くの来場者を魅了した話題となった3つをピックアップ。当時の熱気とともに振り返ります。

入場者数
約14,000人

2024年6月～9月

清瀬駅100年の物語
～駅とともに歩んだまち清瀬～

清瀬駅開業100周年を記念した企画展。懐かしい写真のほか、西武鉄道の協力のもとレッドアローの実車カットボディなども登場しました。



入場者数
4,187人

2023年1月～3月

歩く、描く
谷口ジローと清瀬

清瀬ゆかりの漫画家谷口ジローの世界を紹介した展覧会。清瀬を中心とする地域をモデルとした原画を展示しました。



入場者数
737人

2018年8月～9月

清瀬の富士講
—清瀬から富士を目指した人々—

富士山を崇拝する人々に組織された「富士講」。全国的に衰退しつつある中、現存する中里の富士講に焦点を当てました。口コミで評価され、図録が完売、再販しました。



・企画展・

列車での食文化ストーリー ～想いを紡いでいく～

駅弁や車内販売、ビュッフェや寝台列車の食堂車から、西武鉄道のレストラン列車「52席の至福」まで——。列車の中で味わう食事は、旅の記憶と重なり、ひととき特別なものです。そんな時代とともに変化してきた「列車での食文化」に焦点を当てた企画展です。



今回、小田急ロマンスカーの代名詞である『走る喫茶室』の伝統の継承を目指す「ロマンスカーミュージアム」と鉄道文化財として歴史的価値が高い寝台列車『夢空間』の伝統の復活に挑む清瀬市が、その歴史を改めて振り返るとともに、『夢空間復活プロジェクト』クラウドファンディングのPRも行います。

▶ 2025年10月11日(土)～26日(日)
清瀬市郷土博物館

▶ 2025年10月30日(木)～11月10日(月)
ロマンスカーミュージアム (神奈川県海老名市)

※10/19 きよせ市民まつり2025にロマンスカーミュージアムが参加

清瀬市男女共同参画センター アイレック 市民と紡ぐ 30周年

多様な人が学び、交流し、相談できる場として誕生したアイレック。30周年を迎えた今も、ジェンダー平等の実現に向けた取り組みを広げ続けています。その歩みと拠点の魅力を紹介します。



アイレックまつり実行委員会の皆さん

認めあい、支えあう社会へ ひらかれた男女共同参画

清瀬市男女共同参画センターは、清瀬駅北口ロータリーに面した市民協働プラザの4階にあります。開設は女性の社会参加が目玉された30年前。北口再開発にあたり、「女性センター機能を持たせた施設の建設を」という市民の声に応える形で誕生しました。

開設に向けた流れから現在に至るまで、市民参画はアイレックの特徴となっています。運営委員会の委員をはじめ、講座を企画・実施するイベントチーム、図書コーナーの蔵書の整理を担う図書チームなどアイレックを支えるサポーター

と呼ばれるみなさんが活動しています。年2回全戸配布で発行するきよせジェンダー平等広報「Ms.スクエア」は、毎年編集委員を募集し、市民の目線で編集を行っています。2024年度からは、最新の情報をより早く発信するためにnoteを活用したオンライン発信「スクエア+（プラス）」も始まりました。紙とデジタルの両面から発信することで、幅広い世代へ届きやすくなったのも大きな変化です。

公募で決まった愛称の「アイレック（I・E・C）」は、「情報」「学習」「交流」「相談」の英語の頭文字。アイレックで開催される講座は、女性の権利、男性の育休、性の多様性、包括的性教育など、さまざまな学習テーマが並びます。講座の後には感想を語り合う時間もあり、学びが新たな交流へとつながっています。また、「女性の悩み」「しごと」「法律」の相談を設け、それぞれ専門家である相談員

が相談者の声に耳を傾けています。保育室もありますので、講座、相談の際は、未就学児の保育をお受けすることができ、子育て中の方も安心して参加できます。

開設から今日まで、ひとつのキャッチコピーが変わらず受け継がれています。それは「手を組めば新しい風」ともに認め合うこと、ともに支えあうこと。

市民と市が手を取り合って誕生したアイレック。その取り組みは、未来へと続いて行きます。



清瀬市男女共同参画センター
☎ 042-495-7002
📍 清瀬市元町1-2-11
市民協働プラザ（アミュ）4F
🕒 9:00 - 22:00 / 月曜、年末年始休館

アイレックと清瀬市の 男女平等施策のあゆみ

- 1991年**
清瀬市が市民編集委員を公募し、女性広報「Ms.スクエア」創刊
- 1994年**
清瀬駅北口再開発ビルに女性センター開設を求める陳情が議会で採択
- 1995年**
清瀬市男女共同参画センターが開館
- 1996年**
第1回アイレックまつり開催
- 2006年**
「清瀬市男女平等推進条例」制定
- 2014年**
小学5年生の児童全員に男女平等推進条例 子どものためのガイドブック配布。以後毎年配布
- 2021年**
女性の働きを応援するコワーキングスペースことりば運営開始 / 女性に対する暴力をなくす運動の一環として清瀬駅北口でパープルキャンドル開始 / LGBTQ当事者交流会カフェきよにじ開始
- 2022年**
「Ms.スクエア」創刊100号記念号発行 / 困難を抱えた女性に生理用品を配布
- 2023年**
女性のデジタル分野就職のための人材育成講座開始 / 女性起業家等を応援することりばビジネスコンテスト実施
- 2024年**
SNSでジェンダー平等を発信するスクエア+開始

アイレックまつり 実行委員会が案内！

7 男女共同参画 つの視点

アイレックの取り組みを合言葉のように7つへ凝縮。
ジェンダー平等を暮らしに近づける、
今日からの小さなヒント集です。

① 学ぶ

アイレックの講座は、ジェンダー平等を分かりやすく学べる場です。「女性の権利」「男性の育休」「性の多様性」「包括的性教育」などテーマは幅広く、身近な暮らしに関わる話題も多いです。難しい言葉だけではなく、参加者の経験談やディスカッションを交えて学べるのも特徴。「知る」ことが、日常の小さな気づきや行動の変化につながっていきます。

② 相談する

悩みや困りごとは誰にでもあるもの。「女性の悩み相談」、再就職、起業など働きに関する「しごと相談」、弁護士による「法律相談」。相談員はその分野の専門家の女性です。相談する方の気持ちを受け止め、一緒に解決の糸口を探します。相談して自分がDVを受けていると気づく方もいらっしゃいます。秘密は厳守、安心して話せる相談室があることは心の支えとなります。

⑤ 参画する

アイレックは「利用する場」から一歩進んで「一緒につくる場」でもあります。サポーターは講座の企画・運営に、市民編集委員はジェンダー平等の啓発に関わっています。また、センター運営委員会は、公募市民、アイレックを活動の拠点としている登録団体、サポーターが委員となり、会議室の運営、各種事業実施などに意見を反映しています。

③ 交流する

アイレックは学びの場であると同時に、人と人がつながる交流の拠点。運営委員会や講座のチーム、図書チームなど、アイレックを支える「サポーター」が活発に活動しています。ここで出会った仲間と新しい企画を立ち上げたり、気軽に雑談を楽しんだり。世代や立場を超えたつながりが自然と生まれていくのが、アイレックならではの魅力です。

⑥ 育てる

ジェンダー平等は、大人だけのテーマではありません。アイレックでは子どもや若い世代に向けた取り組みにも力を入れています。例えば、「清瀬市男女平等推進条例 子どものためのガイドブック」など。子ども時代から自分も他人も大切にする考え方にふれることは、とても大切な経験。未来に向けて意識を育むことも、アイレックの役割です。

④ 伝える

市民の声を発信する取り組みも大切にしています。年2回発行している「きよせジェンダー平等広報『Ms.スクエア』」は、市民編集委員がつくる手づくりの広報誌。日常に根ざした記事が多く、読んで「なるほど」と思える内容です。さらに2024年度からは「スクエア+」によるオンライン発信もスタート。より多くの人に情報を届けられるようになりました。

⑦ 支え合う

アイレックの合言葉は「手を組めば新しい風〜ともに認めあうこと、ともに支えあうこと〜」。設立当初から変わらず掲げられてきたフレーズです。男女共同参画は一人ひとりの問題でありながら、みんなで支えあうからこそ前に進めるもの。市民と行政が協力して築いてきたこの拠点は、地域にとっての安心の場所であり続けています。

INTERVIEW

アイレックまつり実行委員長

— 今回のアイレックまつりの見どころは？ —

実行委員長 今年は30周年の特別なイベントです。対談「フェミニズムのこれから」では、漫画家の瀧波ユカリさんとライターの武田砂鉄さんをお迎えします。フェミニズム、というところ、自分には関係ない」とか「女性の運動」と思われがちですが、実は誰もの生活とつながっているものです。日々感じる、小さな痛み、取るに足りない、と無視するのではなく、言葉にして共有することで、社会の変化は始まっていくと思います。多様な世代の皆さんにご参加いただきたいですね。

昨年大好評だった子ども向けワークショップは、今年はコロイキプロジェクトさんに協力いただきます。ほかに、「ピリブ 未来への大逆転」映画上映会、市民から寄せられた品々を販売するバザーなど、さまざまな企画があります。ぜひお気軽にお越しください！

10月11・12日開催！

アイレックまつり

アイレックが誕生して以来、毎年記念イベントとして市民の実行委員により実施。市民が男女共同参画を学べる企画が満載です。

- 日時** 2025年
10月11日（土）・12日（日）
- 場所** 清瀬市男女共同参画センター
- 料金** 無料（講演会・映画は予約制）
- 主催** アイレックまつり実行委員会

KIYOSEのひと

Boulangerie SOGA

曾我世界さん

素材を生かしたパンづくりと、お客さまとの何気ない会話。地域に寄り添いながら、日々の食卓を温め続ける曾我さんの歩みを紹介します。



Boulangerie SOGAは、けやき通りの北端近くに位置する人気パン店。食パンやバゲットなどの定番から、惣菜パンやデニッシュ、最近ではサンドイッチまで、その棚はいつもにぎやかです。

「毎日違うことが、パンづくりの面白さだと思います」と話すのは、オーナーの曾我さん。もともとホテルやフランス料理店でコックをしていた曾我さんは、パンづくりを担当したことを機に、その魅力を知りました。「同じレシピでもつく人によって仕上がりが違う。天候や気温で発酵や焼き時間を調整しますし、小麦粉の状態も季節ごとに変わる。だから面白いんです」。

都内のブーランジェリーで6年間修行し、その後勤めた高級スーパーでは店舗経営を学びました。「自分の店を持ちたい」という思いは年々



強くなり、住まいのあった清瀬で店舗兼住宅を建てることを決意。2017年にBoulangerie SOGAをオープン。間もなく、地域の人の暮らしに寄り添う存在となりました。「対面でお話できるのも、小さな店だからこそその良さですね」。市内農家とつながりも多く、季節の野菜や果実を使ったパンも評判です。

オープン当初から店を支え、二人三脚で歩んできた妻の若菜さんを4年前に亡くしました。店を続けるか迷った時期もありましたが、お客さまからの温かい言葉が励みとなり、スタッフの協力を得ながら、今日もオープンの前に立ちます。「つくりたいパンが、まだまだあるんです」。

実直にパンと向き合い、探究を続ける職人の姿がそこにありました。

☎ 042-491-8322 🏠 清瀬市下清戸4-772-3
🕒 10:00~16:00 / 日・月曜定休

清瀬市観光協会の

お
推し!

10.04 (Sat) きよはちジン	10.11 (Sat) 清酒きよせ
11.1 (Sat) Cascahuin (カスカウイン)	11.8 (Sat) クロージグナイト

清瀬とっておきの「クラフトな夜」

清瀬市役所4階 展望ロビーを夕暮れ時から特別開放。全4回、テーマを変えて清瀬とっておきの「クラフトな夜」をお届けします。清瀬にまつわるジン、日本酒、テキーラなど、多彩なお酒を味わいながら、その魅力や清瀬とのかかわりを出演者と語り合います。地元フードや産品、音楽も加わり、大人の夜時間をゆったり楽しめる期間限定の特別企画です。

時間：各日17:00~20:00（第一部 17:00~18:20 / 第二部 18:30~19:50）

事前予約制：一部、二部入れ替え制

参加費：1フード・1ドリンク付 3,000円（税込）

※出演者によるクロストークがあります（11/8は除く）

※子供料金の設定はございません

※クラフトなオリジナルソフトドリンクもご用意

※ドリンク・フードの追加オーダーも可能です



お申込み・詳しい
情報はこちら👉

more! KIYOSE vol.07

発行：清瀬市シティプロモーション課

発行月：2025年9月

問合せ：☎042-497-1808（直通）

制作：合同会社ハチコク社

表紙撮影：萌-moe-

本誌記載内容の無断転載はご遠慮ください。

©2025 more! KIYOSE all rights reserved.



清瀬市は持続可能な開発目標（SDGs）を支援しています。



みんなの力で
大江戸線を清瀬市へ

あなたの声をお聞かせください

本誌へのご意見やご感想、
気になる情報や見てみたい企
画も募集中です。これまでの
号も合わせてご覧ください。

ご回答は
LoGoフォームへ

バックナンバーは
こちら

